



2007年4月11日(金) 今井 顕 先生連続講座 (全3回)

『なくて七癖、ピアニスト』 「生き生きと」ってどうするの？



16才で渡欧、ウィーン国立音楽大学をご卒業後、エッセン国立音楽大学マスターコースを修了された今井顕先生をお迎えしての連続講座です。
第1回目、今回は「音符を“しゃべる”」という内容の2時間でした。
ピアノ指導者・子供にピアノを習わせているお母様などが受講され、たくさんのご意見を頂いた中から一部ご紹介します。

参加された理由 講座が終わって

ウィーン国立音楽大学で学ばれたウララ・ササキさんにチェロの伴奏をきっかけに見ていただくようになり、とても嬉しいレッスンを受けています。今日は楽しみに参りました。いつもレッスンでスラー(特に左手)の弾き方をどう指導したら良いのか曖昧でいい加減だったので、時代により意味が違っていたことを明確にさせていただいて納得出来ました。

譜読みの後平板な抑揚のない生徒の演奏をどんな言葉をかけて生き生きとした言葉のような演奏にできるか、とてもよいヒントを頂きました。こうなんだけどなぁと思ってもよい表現(言葉での説明)が見つからないことがあったので...。これからも楽しみにしています。

ウィーンでご活躍された今井先生のお話を伺いたかったので。

自分が「こうかな?」と思っていた事に確信を持てたり、新たに気付かされることが多く、2・3回目がとても楽しみです。ドイツ語もたくさん聞きたいです。

楽譜からメッセージを読み取ることが大切なのは知っていますが、その方法を具体的に知りたかったから。

ロマン派と古典派の違い、古典派の読譜法がとても具体的で、わかりやすかった。先生の演奏が素晴らしかったので、もっと聴きたいです。次回の休符も楽しみです。

自分が習ってきた何十年も前の楽譜、弾き方で良いのか疑問に思っていたところだったから。時間があつという間に過ぎていった。今後2回もとても楽しみです。

「今井先生のこの本はいい!」と他の先生からお聞きしていましたので参加しました。

パソコンでの画像を使つての講座で、とてもわかりやすく、あつという間の2時間でした。



今井先生、
ありがとうございました